

東京新聞

若者の声

2020年7月17日(金) 掲載

言葉の強い力 意識し話そう

中学生 坂梨 素世 12

(東京都文京区)

「ガンバレ!」。皆さんはこのような言葉でやる気が出たことはありませんか。

「バカ」「ウザい」などと言われて悲しい気持ちになったことはありませんか。

私は柔道の試合で、みんなの声援でやる気が出て勝ち進み、表彰台にのること

ができました。もし、声援がなかったら、勝てなかったかもしれない。

また、最近、番組に出演中だった女性プロレスラーが亡くなりました。会員制交流サイト(SNS)などによる誹謗中傷が原因で命を絶つたとされ、問題になりました。

言葉は人を生かすことも殺すこともできる、すぐく強い力があります。皆が言葉の力を意識して発言することが必要だと思います。

友達の存在で 気持ち明るく

中学生 西形 きの 12

(東京都文京区)

「友達になろう」

小学校二年生で転校したときに初めて声をかけてもらったときの言葉だ。

教室に入るまで不安な気持ちでいっぱいだった。でも、この言葉のおかげで、その子と友達になることができ、それまでの不安な気

持ちがなくなった。

その後、みんなで自己しようかいをして、クラスになじむことができ、うれしかった。たくさんのお友達ができて、最初の一日を元氣よく過ごせた。

この出来事をきっかけに、友達とは、暗い気持ちから明るい気持ちにできる大切な存在だと気づいた。だから、これまでに以上に友達を大切にしたい、友達が暗い気持ちだったら明るい気持ちにできるようにしたい。

東京新聞

若者の声

学校の制服は あり方考えて

中学生 佐藤 平理 ひらり 13

(東京都文京区)

多くの中学校、高校では義務付けられている制服で

すが、必要でしょうか。制服メーカーによる意識調査では、約九割が必要と回答していました。毎日の服装に悩まない、私服が少なくてすみ経済的、個人差が出

ず平等、などの利点が挙げられました。他に、生徒に一体感や学校への愛着心が生まれるという利点もあると思います。私も制服を着るようになって「自分は中学生だ」という自覚が生まれました。

いたそうです。すてきな制服でも、着たくないのに強要されたら苦痛でしょう。

制服はあり方を少し変える必要があると考えます。

女子はセーラー服やスカート、男子は学ランやズボンと、女らしさ男らしさを強

一方、性的少数者の人への配慮不足などの理由から不要という意見も。実際、体は女性で心は男性の芸人万次郎さんは、スカートをはかされ、嫌な思いをして

要するのではなく、例えばブレザーやベストにスカートかズボンを自由に選べるようにしては。嫌なものに無理やり着せられるものにはなってほしくありません。

東京新聞

若者の声

子どもたちが 学べる世界に

中学生 武田 悠秀 13

(東京都文京区)

世界には勉強したくても
できない子どもたちがいま
す。教室がないなど環境が
整っていないところもたく
さんあります。

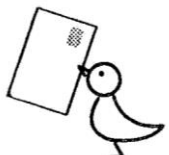
現在、小中学校に通って
いない子どもは世界に約一

億二千万人、多くは途上国
と呼ばれる貧しい国に集中
しています。入学しても途
中でやめてしまつ子ども、
読み書きができない子ども
も多くいます。読み書きで
きないと、毒の瓶と薬の瓶
が見分けられないなど、命
にも関わってきます。

教育が受けられないこと
で起きる問題もあります。
知識を得られない、計算で
きかない、仕事を選べない、

社会から取り残される。こ
のような状況が各地で起き
ていると知り、なぜ悪いこ
とをしていけないのに、不利
な人生を送らねばならない
のか、と感じました。

こんな世界を直すため、
今、大勢の人が協力して子
どもたちを平等に教育しよ
うとしています。できる限
りそれを支援し、平等とは
いえない世界を変えていき
たいです。



友達の良さ「体感」の運動会

中学生 山本葉々 13

今年の運動会はいろいろ学ぶことが多かったです。

「ソーラン節」は最初は踊るのが嫌でしたが、練習でみんなが本気で踊っている姿を見て、「みんなの足を引っ張らないようにがんばろう」と思いました。

みんなでやる競技では、「声掛け」が大切だと感じました。成功したときには「いいね」、失敗したときには「どんまい」など、声を掛けることでクラスの雰囲気越来越好くなります。

一番大変だった競技は

「選抜リレー」です。1人校庭1周と長い距離を走るのでものすごく疲れます。

でも、友達が大声で応援してくれて、走り終わった後も「お疲れさま」「頑張ったね」とうれしくなる言葉をかけてくれ、本当に頑張ったよかったなと心の底から思いました。

一番心に残っているのは友達です。友達のおかげで頑張れたことがたくさんあって、改めて友達がいるっていいなと思いました。

（東京都文京区）

東京新聞

若者の声

考えることを 習慣にしたい

中学生 寄金 久與 14

(東京都文京区)

言われたことは完璧にできるのに、自分で考えて行動するとなるとできない。最近はそのいった人が増えていると思う。私も「自分で考える」ことが苦手だ。言われたとおり、周りに合わせなくては、と感じているからなのだと思う。

また、インターネットが普及した現代では、疑問もすぐ調べられ、答えが分か

る。その便利さに頼り、自分でとことん考える機会を減らしているとも感じる。

ひと昔前なら、試験の点数や記憶力の高い人が求められただろうが、現在はデジタルを使いこなし、自分で課題を見つけ解決できる人が必要とされているのではないか。

人工知能(AI)やロボット技術が進歩する中、人間にしかできないことを見つけていかなければ、主体性のある人生を送れない。だからこそ、自分で考える習慣を身につけたい。

2020年12月2日(火) 掲載

メールだって「対面」だ

中学生 竹内 結13 (東京都文京区)

LINE(ライン)など ことを責められて、不快なメッセージ機能を使っただけの 思いをしたこともある。

人とのやりとりが増えてい 人と直接会わなくても気になる。しかし、目の前に相手 軽に交流できる機能はとてがないぶん、マナーに気 も便利だが、相手と文章を配る必要があると思う。 通して「対面」しているこ

文字でのコミュニケーション とを忘れてはならないと思う。メールはいつでも返信 ヨンは難しいと思う。私は できるわけではないし、文章とよくメールをする。 章だって一つの表現をどうその人とはとても気が合う 捉えるか、人によってさまざまので交流は楽しいのだが、 表現の仕方や返信する時間 さまざまなので、少なくとも時などで度々すれ違いが生じ 間や相手の状況を考慮するてしまう。送った言葉が違 などのマナーは守り、コミュニケーションをとることう意味に捉えられたり、文 章が過激になってしまった が大切だと思う。

りする。返信が遅れ、その

進化する技術

悪用しないで

中学生 山田豊太郎 12

(東京都文京区)

先日、自宅にノートパソコンが届いた。家にある旧型のデスクトップパソコンと比べると、性能は良くなっていた。あの大きな箱が薄い板に性能で負けるというのだから、驚きだ。高性能

能の製品を、低価格で、より小さく、使いやすくしてほしいというニーズに応えた結果だと思う。僕たちに夢を見せてくれるし、より便利で豊かな生活にしてくれる技術の進歩。だが、それを悪用する一部の人によって、多くの人が不幸になってしまいかもしれない。それはとても残念だ。皆がルールやマナーを守り、進化した技術で幸せな夢を見られる世の中であってほしい。

だが、技術の進歩は時に人に牙をむく。会員制交流サイト(SNS)にアップされたアイドルの画像で、瞳に映っていた周囲の風景から撮影場所が特定されたということがあった。進化する技術は悪用されてしまうことで、開発した人たち

プラごみ対策

海を守りたい

中学生 山内里桜夢 12

(東京都文京区)

「海」と言われたらどんなものを想像するだろうか。私は透き通ったスパルタブルーの海だ。そんな海で今、プラスチックごみによる海洋汚染が問題になっている。ポイ捨てや適切に処

分されないごみが原因だ。

どもよく聞く。

海に流出するプラスチック

世界中どの国も、プラス

クごみの量は世界中で年間八百万トもある。それらの

チックを徹底して管理し、資源循環を推進したり、ご

プラスチックは海洋生物に

みの回収から適正処理を行

悪影響を及ぼしている。

ったりする必要がある。さ

「海」と言われたらどんな

例えば、ウミガメはポリ

らに私たち一人一人が、ポ

袋を餌となるクラゲと間違

イ捨てをせずごみの分別を

え、のみ込んで窒息して死

しっかりと行うことで、こ

んでしまうことがあるそう

の対策はより効果的にな

だ。漁業の際に捨てられる

る。私たちの子どもにきれ

網が絡まって体中が傷つい

いな海を残すために生活を

てしまったクジラの報道な

見直したい。

東京新聞

若者の声

タヌキ救えず はがゆい思い

中学生 長谷川 光 12

(東京都文京区)

六日の東京新聞「12月の窓」に「タヌキに出合う深夜の別世界」という話が載っていた。人々が寝静まった夜の街にたびたび出没するタヌキ。専門家によると、タヌキは夜行性で、都市心でも公園や茂みがある場所では生息できるという。

僕の家周りにもタヌキが出る。親と三匹の兄弟。

そのタヌキたちには特徴がある。毛がない部分があるのだ。初めて見たときは何の動物か分からなかった。

調べてみるとタヌキで、皮膚病にかかったら毛が抜けてしまうということが分かった。

母が東京都の環境局に電話したが、捕獲することはできないと言われた。タヌキにかかわらず、野生動物に出合ったときは決して触ってはいけないとも。

都市心でも野生動物が繁殖しているというのは、身近な話だった。皮膚病のタヌキを見てかわいそうに思ったが、助けることができず残念だ。

東京新聞

著者の声

2021年1月8日(金)掲載

地元のPRに 役立つゲーム

中学生 福澤柊之介 12

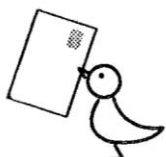
(東京都文京区)

新潟県佐渡市が、任天堂のゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」内に「さどが島」というものを公開した。観光名所を再現し、金山で金を掘ることもできる。コロナ禍でなかなか外出や旅行ができない中、ゲームで観光名所を楽しめて旅行気分になれるのはすごいことだと思った。

また、ゲームを通して小さな子どもでも同市のご当地名物や観光名所を知ることがができる。これを他の市町村もまねすれば、あまり知られていないところもその良さをPRでき、大人も子どももゲームをしているみんなが、その地をくわしく知ることができる。

僕はゲームの影響力の大きさに驚いた。上手に使うことで、ただ遊ぶだけではなく、現実に役立つものになるのだと思った。

産経新聞



ひびくばえ倶楽部

脱ガソリン車なら対策必要

中学生 山田豊太郎 13

政府が、2030年代半ばにガソリン車の販売を完全になくすという目標を打ち出そうとしていることを新聞で知った。私はこの目標は少し非現実的で、実現は難しいのではないかと思う。

なぜなら、現在流通しているガソリン車の数がとても多いからだ。さらに、自動車メーカーのウェブサイトにを見ると、ハイブリッド車などの選択肢のないガソリン車だけのブランドもあった。

複数の車種を比較すると、基本的にはハイブリッド車や電気自動車よりもガソリン車の価格の方が安か
ガソリン車をなくすと消費者にとっては選択肢が狭まってしまう。自動車メーカーにとっても、今後の経営戦略に狂いが生じ、修正を強いられるのではないだ
ら、しっかりとした対策を練ってほしい。

(東京都文京区)